

Relay™ 8000
導入事例

User Profile



OCC

浜松信用金庫

所在地：
沖縄県浦添市沢岨2丁目17番1号
OCCコンピュータビル
創業：1966年10月11日
資本金：4,880万円
(授權資本金 1億9500万円)
従業員数(グループ)：651名
(2017年7月現在)
代表取締役社長：天久 進

概要：1966年10月、地域社会近代化のための“総合コンサルティングセンター”たることを目的として、地元経済界有志によって「株式会社沖縄電子計算センター」として設立し、昭和61年に社名を株式会社OCCへ変更。創業以来コンピューター筋に、県内地方自治体・諸団体、政府関係、民間企業に対し、ソフトウェアの開発を含む「コンピューターサービス」を提供。多様化、複雑化する変化社会にあっても、「人間社会」と「コンピュータ」の調和を図り、人々の暮らしの中にコンピュータを取り入れ、社会の期待と信頼に応える事業を展開し続けている。

URL: <http://www.occ.co.jp/>

pitney bowes 

株式会社OCC 様

少ロット案件、名寄せや定形外など新たなユーザーニーズへの対応を目指し「Relay8000」と「PlanetPress」を導入
自動化による業務効率化を実現すると共に、
新たなビジネス領域への拡大を目指す

沖縄地域社会近代化のための総合コンサルティングセンターとして設立された株式会社OCC。「OCCの歴史は沖縄のコンピュータの歴史」と言われるほどの実績を持ちながら、高い技術力と対応力で新たなチャレンジを続けています。今回、ピツニーボウズの封入封かん機と帳票設計・処理プロセス自動化ソフトウェアを導入し、業務効率化と共にサービス対応力を向上しました。

少ロット案件、名寄せや定形外など 新たなニーズへの対応が課題

株式会社OCC(オーシーシー)は、米国施政権下の1966年、沖縄地域社会近代化のための“総合コンサルティングセンター”たることを目的として地元経済界有志により「株式会社沖縄電子計算センター」として設立。1986年、創業20周年を期に現在の社名に変更されました。創業以来、一貫して「コンピューター筋」に沖縄県内の地方自治体、諸団体、政府関係、民間企業はもとより、台湾、香港、インドネシア等への進出を含め、全国各地に向けてソフトウェア開発を含むコンピューターサービスを提供。設立当初16名だった社員数も現在では600名を超え、社会や企業の発展と成長を支えるコンピューターサービス企業として、発展を続けています。

データビジネス事業本部 DCサービス部 部長の新垣 勝巳氏は今回の導入前の課題について「自治体などからの受託業務拡大を目指す上で、少ロット多品種、さまざまなニーズに対応する必要性が課題として浮き彫りになっていました。これまで活用してきた大型の封入封かん機は大量処理を行うには適していますが、調整が難しく時間がかかるため、少ロット多品種案件対応には不向きです。また、名寄せ業務や定形外封筒への対応などの要望も増えてきましたので、これらによりフレキシブルかつスピーディーに対応できるソリューションを模索していました。また、封入封かんプロセスにおける高いレベルのセキュリティ性の担保は弊社の業務特性上、譲るわけにはいかないため、これらのニーズを柔軟に両立でき、さ

らにできるだけクイックに導入、運用開始できるものを探していました。」と話します。

データビジネス事業本部 営業部 営業グループ エキスパートの比屋根 覚氏は「少ロット多品種案件や名寄せ、定形外封筒への対応は一部、包括的アウトソーシングとして受託していましたが、手作業での対応でした。近年お客様ニーズが高まり、この部分を業務改善し、新たなサービスとして営業展開するためのソリューションを求めていたのです。」と補足します。

同社はピツニーボウズの営業チームと検討段階から連携を図り、事細かく相談したとのこと。選定について比屋根氏は「現時点での課題だけでなく、将来の業務拡張も視野に入れた提案もいただいで、中長期的にも当社の方向性と合致すると理解できました。また、課題解決策として、ハードウェアだけでなくソフトウェアを組み合わせることで、他社製品で実現できる業務処理レベルとは一線を画す印象がありました。当社とピツニーボウズ双方の持つ技術や経験、実績を最大化することで、さらに最適なサービスをお客様へコミットメントできると確信が持てました。そのことが選定の決め手となりました。」と話します。

工程と設定時間短縮により、
正確でスピーディな
少ロット案件対応が可能に

2017年11月、ピツニーボウズRelay8000とPlanetPressを導入。業務効率化に大きな効果が現れているとのこと。新垣 勝巳氏はそ

株式会社OCC 様

の効果について次のように話します。「これまで、自治体の受託業務などでは印刷→裁断→折り→封入封かんという工程が必要でしたが、Relay8000では折り工程が封入封かんと同時に進行することができるため、作業時間が大幅に短縮しました。また、これまでの大型の封入封かん機では作業ごとに複雑な調整作業が必要でしたが、Relay8000では一度調整した機器設定をメモリー登録し、次回作業時に呼び出すことが可能なため、作業が変わるたびに複雑な設定を改めて行うことはありません。少ロット多品種案件、かつ定例業務でとても助かっています。」

PlanetPressにより バーコード付与や 帳票設計業務も効率化

また、帳票の設計やデザイン、処理プロセスの自動化をすることができるソフトウェアPlanetPressの導入効果も大きいと話します。「これまではバーコードを印字するためにはプログラム改修が必要となり、その費用対効果を検討する中で、実施に踏み切れないことが多々ありました。PlanetPressを利用することで、他ベンダーのシステム制約にとらわれずに安価にバーコードを付与することができます。新規帳票設計においてもCSVやエクセルデータなどの印刷データを取り込んで、帳票設計が容易にできることも魅力です。作業工数削減で具体的には、自治体からの1,500部ほどの名寄せ封入封かん案件において、従来手作業では6名で7時間かかっていたものが、ピツニーボウズのソリューションにより2名で5時間となりました。名寄せ、確認、同梱チラシのセット、封入封かんなどに多くの人員と時間がかかっていた作業が少人化、自動化され、しかも正確に作業できることは、非常に大きな効果です。」(新垣氏)

導入効果は、業務効率化だけでなく、同社の営業展開にも表れています。「セキュリティ性を高めつつ、少ロット多品種の業務ニーズにも応えられるようになったことで、早期に複数の自治体から新たな案件の受注をすることができました。特にPlanetPressソフトウェアを活用したマークの照

合など、業務効率化だけでなく信頼性、セキュリティ性という観点でお客様に与える安心感は非常に大きく、同業他社との差別化にもつながっています。」(比屋根氏)

業務効率化だけに留まらず 新たな営業展開にも効果

多様化、複雑化する変化社会において、「人間社会」と「コンピュータ」の調和を図り事業を推進するOCC。同社は今回のソリューションで得た新たな実績をベースに、県内での受託ビジネスを更に深化させるべく横展開を図っていく考えです。今後の展開とピツニーボウズとの連携について、比屋根氏は次のように話します。「利用者が見やすい帳票になることを意識し、ユニバーサルデザインの観点も取り入れながら、カラープリンタによるパリアブルプリントサービスも今後、強化していきたいと思っています。ハードウェア、ソフトウェアについてはピツニーボウズからのサポートも十分に得ながら、より細かな設定なども施しつつ、お客様のニーズにフレキシブルに応えられる環境を構築していきたいと考えています。自治体のみならず、今後高齢化や社会全体の変化で業務量が更に高まると予想されている健診機関や病院などにもアプローチをし、手作業による業務の負担減に加えて、さらに品質を高め、『誤封入ZERO』を実現しながら、働き方改革にも貢献していきたいと思っています。」

Relay™ 8000 導入事例



データビジネス事業本部
営業部 営業グループ エキスパート
比屋根 寛氏



データビジネス事業本部
DCサービス部 部長
新垣 勝巳氏



pitney bowes 

ピツニーボウズジャパン株式会社
〒140-0001
東京都品川区北品川4-7-35 御殿山トラストタワー 12階
TEL.03-5657-1201(営業ダイヤル) FAX.03-3280-8900